

令和7年1月 28 日

関係者各位

産総研コンソーシアム
持続性木質資源工業技術研究会
事務局

第51回研究会開催のお知らせ

拝啓 平素より、本研究会活動にご協力いただきありがとうございます。

来たる3月26日(水)に、【別紙1】の要領にて第51回研究会を開催いたします。

今回、取り上げるテーマは、『資源循環・サーキュラーエコミーに向けた木質・バイオ部素材分野のアプローチ』です。

「循環経済ビジョン 2020」の策定以来、様々な経済活動においてサーキュラーエコミー(循環経済)は大きな課題となっています。このビジョンは、「環境活動としての 3R(リデュース、リユース、リサイクル)」から、「経済活動としての循環経済」への転換をはかるものであり、廃棄物や環境問題、資源枯渇の問題や ESG 投資の高まりなどグローバルな経済社会の変化を受けて、持続可能な形で資源を最大限活用する「サーキュラーエコミー」をめざすことが、世界的な潮流となっています。企業が、経営戦略・事業戦略にこのようなサーキュラーエコミーを組み込み、付加価値の高い循環型の製品・ビジネスをグローバル市場で展開することは、国際競争力を得られるとともに、企業の持続的かつ着実な成長も実現すると期待されています。しかしながら、日本がサーキュラーエコミーを推し進める背景には、大きく3つの課題と危機感(すなわち、①資源制約・リスク(経済の自律性)、②環境制約・リスク、③成長機会)があるとされています。(経済産業省 資源エネルギー庁 『成長志向の資源循環経済システム「サーキュラーエコミー」(前編)どんな課題を解決するの?』抜粋引用)

このような状況の中で、国内に賦存する資源(木材、バイオ原料)においても脱炭素社会の構築に向けて、資源循環の重要性が益々高まっており、企業等で積極的に戦略立案、技術開発が進められています。今回の研究会では、木材・木質材料・素材の分野で資源循環・サーキュラーエコミーを推し進められている企業の方にご講演いただきます。この機会に今一度、皆様と情報共有し、各々の活動の中に活かしていく、取り込んでいただけるきっかけとなれば幸いです。

本研究会に参加を希望される方は、【別紙2】に記載の Forms から登録をお願い申し上げます。

敬具

記

- 【日時】 令和7年3月26日(水) 13時00分～15時20分
- 【主催】 産総研コンソーシアム持続性木質資源工業技術研究会
- 【後援】 産総研マルチマテリアル研究部門、中部科学技術センター
- 【会場】 産業技術総合研究所 中部センター OSL 連携会議場
- 【プログラム】 別紙1
- 【参加費】 無料

プログラム

『資源循環・サーキュラーエコミーに向けた木質・バイオ素材のアプローチ』

13:00～13:05 開会挨拶

13:05～13:55 『三菱地所グループが進める木造木質化事業と Regenerative Wood 取組紹介』

2016年から取り組んできた三菱地所グループの木造木質化事業に加え、この度「資源を無駄にしない」で、都市と建築の木造・木質化を達成するために木質 3D プリントを用いた生産システム『Regenerative Wood』を構築しました。フィラメントに木の製材加工時に生じる木粉を用いることで廃棄物をリジェネラティブ(再生可能)な素材とする、資源循環の試みを紹介します。

株式会社三菱地所設計 R&D 推進部 木質建築ラボ チーフエンジニア/
広島大学 客員准教授(建築材料学研究室所属)/
鈴工 CLT Research&Design Lab クリエイティブエンジニア/
三菱地所株式会社 関連事業推進部 木造木質化事業推進室 統括
海老澤 渉

---- 休憩 ----

14:00～14:50 『ダイセルのバイオマスバリューチェーン構想』

弊社は、循環型社会の実現に貢献するため、日本に眠る森林資源などの天然由来原料を、環境にやさしいプロセスにて、100%無駄なく活用する新バイオマスプロダクトツリーの実現を目指しています。本発表では、一次産業と二次産業の共創循環を通じて、持続的な産業生態系を実現するバイオマスバリューチェーン構想と、バイオマスの溶解技術およびセルロース製品群の開発の取り組みについて紹介します。

株式会社ダイセル 研究開発本部 バイオマスイノベーションセンター
テクニカルサービス&応用開発グループ BVC プロトタイプ実装チーム リーダー
磯江 亮祐

金沢大学 特任教授/
株式会社ダイセル 研究開発本部 バイオマスイノベーションセンター
テクニカルサービス&応用開発グループ 主席研究員
松村 裕之

14:50～15:20 『ゼラチンの高度利用 と 循環型木質材料への展開』

産総研では木質流動成形等の木質材料の加工成形技術の研究開発に取り組んでいます。一般的に木質材の接着等に利用されている化石資源由来の合成樹脂をゼラチン等の天然由来の樹脂に置き換えることで資源循環材料へ展開する試みを紹介します。

国立研究開発法人 産業技術総合研究所
マルチマテリアル研究部門 木質循環複合材料グループ 主任研究員
稲垣 雅彦

産総研コンソーシアム持続性木質資源工業技術研究会

第51回研究会『資源循環・サーキュラーエコミーに向けた木質・バイオ素材のアプローチ』

参加申込み

申込み締切り 令和7年3月24日(月) 正午

申込ページ URL (Forms)

<https://forms.office.com/r/j54Juipj7G>



《お申込み・お問い合わせ先》

〒463-8560

名古屋市守山区桜坂4丁目 205

国立研究開発法人産業技術総合研究所 中部センター内

産総研コンソーシアム持続性木質資源工業技術研究会 事務局

E-mail: jizokusei-mokushitsu-ml@aist.go.jp

TEL: 050-3522-7723 (事務局: 関)